第17回 適塾講座

病気を環境する

人間が地球の生態系に与える影響は今や計り知れません。生物多様性の損失が要因とされる花粉症などのアレルギーから、コロナ禍や鳥インフルエンザのような動物由来感染症まで、人間が作ってきた環境が人間の病気をもたらしています。こうして人為起源の環境変化が人間の健康に及ぼす複雑な影響を理解するには、今までとは違う思考が求められます。本年度の適塾講座で迎える研究者たちは、社会と生態系をつなぎながら、病気と環境の切ってもきれない関係を探求します。

コーディネーター：モハーチ ゲルゲイ（大阪大学大学院人間科学研究科准教授）

子どもたちに『感染症と人類の歴史』を伝える

第１講座

いまからもう３年も前になりますが、『感染症と人類の歴史』（文：おおつかのりこ、絵：合田洋介）という三冊本（『移動と広がり』『治療と医療』『公衆衛生』）を文研出版（2021）が出版されました。ぼくは監修者として、この本の編集過程で原稿をチェックしたり、執筆者や編集者からの問い合わせに応じたり、情報を追加検索したりと、出版を見守ってきました。そしてまた同時に、まえがきやあとがきで、子どもたちにメッセージを発信してきました。みんなの努力もあって、これらの本は、幸い学校図書推薦書にも認定されました。感染症の対策は現場での対応のほかに、パニックや予防接種拒否をおこさないために大人たちへの教育も必要ですが、理性的行動ができ、患者である市民の権利を理解できる次世代の子ども育成も課題になるでしょう。ぼくが監修のプロセスで学んだ「子どもたちに感染症の歴史を伝える」ことの意味について考えます。

池田　光穂

大阪大学名誉教授

1956年大阪市生まれ。大阪大学名誉教授。専攻は文化人類学、医療人類学、狗類学（犬と人間の研究）そして最近は芸術と社会の関係について興味をもっています。

10/21［月］18:30～20:00

食品から摂取されるカドミウムの健康影響評価

第２講座

カドミウムは、土壌中、水中及び大気中の自然界に広く分布し、環境由来のカドミウムは穀類、野菜類、海産物などの食品中に様々な濃度で蓄積します。特に、我が国では全国各地に鉱床や鉱山が多く存在していたことから、カドミウムばく露レベルは海外に比べて高い傾向にあります。内閣府食品安全委員会は、食品の安全性を確保するために科学的にリスク評価を行う機関です。今回の適塾講座では、2024年に改訂された健康影響評価書の内容を概説します。

祖父江　友孝

内閣府食品安全委員会委員

専門は、がん疫学、がん対策、食品安全。大阪大学医学部卒。米国ジョンスホプキンス大学公衆衛生修士課程修了。大阪府立成人病センター調査部、国立がんセンター研究所がん情報研究部室長、同部長、がん予防・検診研究センター情報研究部長、がん対策情報センターがん情報・統計部長を経て、大阪大学大学院医学系研究科環境医学教授。2024年7月より現職。著書：「がん・統計白書2012」（篠原出版）、「はじめて学ぶやさしい疫学」（南江堂）など。

10/24［木］18:30～20:00

人間と動物がつくりだす環境と健康

第３講座

人間と動物の関係は、人類が生まれて以来ずっと変わってきました。それは、人間が動物を捕食するという関係だけでなく、人間にとって、感染症をもたらす主要な「環境」でもありました。新型コロナウイルスのパンデミックで経験したように、動物由来感染症は、新興再興感染症の主要な部分として拡大しています。人間と動物の存在と活動が相互につくり出す「環境」と、それがもたらす健康への影響について、東南アジアや日本の事例から考えてみたいと思います。

住村　欣範

大阪大学グローバルイニシアティブ機構教授

専門は、人類学、東南アジア地域研究。ハノイ国家大学留学。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学、博士（人間科学）。大阪外国語大学東南アジアオセアニア専攻講師、大阪大学グローバルコラボレーションセンター准教授を経て、大阪大学グローバルイニシアティブ機構教授。2022年10月より現職。2011年から2019年まで、地球規模課題対応国際協力事業（SATREPS）「薬剤耐性菌発生機構の解明と食品管理における耐性菌モニタリングシステムの開発」に参加。

11/27［水］18:30～20:00

場所　大阪大学中之島センター

大阪大学

大阪大学 適塾記念センター

UNESCO Chair Global Health & Education THE UNIVERSITY OF OSAKA

主催：大阪大学適塾記念センター・適塾記念会　　共催：大阪大学ユネスコチェア「グローバル時代の健康と教育」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

※今回のテーマはSDGsの1, 3, 5, 6, 7, 11, 12, 13, 14, 15, 17に関連します